

本書の特色一覧

教育基本法との対応

※表データは弊社ホームページに掲載しています。

教育基本法第2条	『社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土』における教育基本法との対応	本解説書での特色と掲載頁
<p>第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 国土理解のために、日本全体の自然環境や人口、産業について最新の状況をふまえて記述し、世界の中における日本の特色をとらえられるようにした。(p.119-166) ● 「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の単元では、地理の基礎的・基本的知識である自然環境や生活・文化、産業など、中核となる地理的事象を考慮しつつ体系立てて記述することで地域的特色を把握し、国土理解および異文化理解を深められるようにした。(p.33-109, 167-265) ● 各見開きでは、学習の導入として生徒の興味・関心をひく資料と学習で押さえるべき課題「学習課題」を示し、学習のまとめとして学習内容の確認をする「確認しよう」や、知識を整理する言語活動を促す「説明しよう」を設けることで、自ら考察する力を身につけられるようにした。(全体) ● 「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の各節の最後には、これまでの学習を振り返り、その地域の基礎的・基本的な知識を確認して、整理する作業ページ「学習をふりかえろう」を設けた。(p.48-49, 63, 73, 87, 99, 109, 181, 195, 209, 223, 239, 253, 264) ● 「日本の諸地域」の各節の最後に、特設ページ「地域を探ろう」を設け、その地域を多面的・多角的にとらえて紹介した。(p.180, 194, 208, 222, 238, 252) ● 本書全体を通し、写真を多用し、かつ大きく見せることで各地域に対する臨場感をもたせ、本文をより良く理解できるようにした。また、人々の姿が見える写真を入れ、各地の人々の営みを実感できるようにした。(全体) ● 「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の各節冒頭に、各地域をいきいきと表現する写真を中心とした「導入写真」ページを設け、興味や関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、これから学習する地域がどのようなところなのか、イメージをもてるようにした。(p.34, 50, 64, 74, 88, 100, 168, 182, 196, 210, 224, 240, 254) 	<p>おもに 特色1 p.5-8 特色2 p.9-20 特色3 p.21-24 特色4 p.25-28 特色5 p.29-31</p>
<p>第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活をより豊かにするため、工夫や努力をする人々の姿が読み取れる写真を掲載したり、エピソードをコラムや「声」のコーナーで紹介したりすることで、仕事のやりがいや苦労を伝えるとともに、人々の工夫と努力の結果、今の姿があることを理解できるようにした。(写真：全体、[声]：p.246「さくらんぼ農家の話」など) ● 学習内容に合わせて「技能をみがく」コーナーを全25か所設け、地理の基礎的・基本的な技能を身につけられるようにした。(p.32「主題図の読み取り方」、p.138「地形図の使い方①～縮尺と地図記号～」など) ● 日本で起こる自然災害と、防災に取り組む活動を本文やコラムで説明するとともに、特設ページ「トライアル地理」でハザードマップの活用を紹介し、地域の事情をふまえて防災を自ら考え、行動を起こせるようにした。(p.144-147, p.148「ハザードマップを使ってみよう」) ● カラーユニバーサルデザインに配慮し、地図やグラフなどを、色覚特性のある生徒にも読み取りやすい配色にした。また、ユニバーサルデザインフォント(UDフォント)を用い、すべての生徒にとって文字を読み取りやすくなるようにした。(全体) 	<p>おもに 特色4 p.25-28 特色5 p.29-31</p>
<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子化・高齢化や経済格差の問題、環境保全や防災への取り組みなどを、現在及び将来の社会が直面する課題としてとらえ、責任感をもって取り組めるよう、コラム「羅針盤マーク」で、未来の社会をつくるために参考となる取り組みを紹介した。(p.157「鉱山町から資源リサイクル基地」へ、p.166「通信技術を医療に生かす」、p.213「富士山の噴火や地震に備えて」など) ● 「身近な地域の調査」では、生徒が暮らす身近な地域の課題や将来像について考え、調査結果の発表や意見交換などを通して、地域をより良くするために主体的に取り組めるようにした。(p.110-119, 266-275) 	<p>おもに 特色4 p.25-28</p>
<p>第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界や日本の自然への興味・関心をもち、それを大切にするために、「日本の諸地域」と「世界の諸地域」の各節のはじめに設けた、各地域の地形・気候について学習する「自然環境」のページにおいて、人々の生活とのかかわりを描写した。(p.36, 52, 66, 76, 90, 102, 170, 184, 198, 212, 226, 242, 256) ● 自然と人間社会との共生を考えさせるための、環境問題や環境保全に関する事例を、コラム「羅針盤マーク(環境)」で数多く取り上げた。(p.86, 157, 173, 177, 193, 205, 215, 237) 	<p>おもに 特色2 p.9-20 特色4 p.25-28</p>
<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書全体の導入として、「世界に広がる日本の文化と技術」とともに「日本の中で進む国際化」を紹介し、日本で育まれた文化が世界で広く受けとめられている現状を理解できるようにした。(巻頭p. I - III) ● 「日本の諸地域」の単元を中心に、日本の伝統や文化の事例を数多く取り上げ、地域で受け継がれている伝統・文化への興味や関心をもてるようにした。同時に、それらを受け継いできた人々の営みや努力を描き、各地の伝統・文化を身近なものとして感じられるよう配慮した。(p.221「雪国で発達した地場産業」、p.248「地域の農業と深く結びついた祭り」など) ● 世界各地の「生活と環境」を扱うページでは、独自取材の成果を本文や写真に生かし、「衣」「食」「住」の観点から世界の多様な文化や人々の姿を扱い、独自取材で得られた情報を写真や本文に生かしながら、その地域を訪れたかのような臨場感をもって描くことで、異文化理解を深められるようにした。(p.14-32) ● 「領土」については、日本の領域について図や写真を用いていかに説明した。また、北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることを明記し、領土に関する現状と課題を示しつつ、平和的な解決に向けてどのような方法があるのか考えられるよう構成した。(p.124-127) 	<p>おもに 特色2 p.9-20 特色4 p.25-28</p>

検討の観点からみた内容の特色

※表データは弊社ホームページに掲載しています。

観点	観点の内容	本書の特色	本解説書での特色と掲載頁
内容の程度・分量	教育基本法との関連が十分に図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●教育基本法第1条の目標及び教育基本法第2条第1～5号に示された内容について、社会科の目標や学習内容と関わらせた指導を効果的に行うことができるように構成されている(詳細は本資料p.37を参照)。 ●国土理解及び国際理解のために、日本・世界各地における自然環境、人口、産業などを、最新の状況もふまえて記述し、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるよう配慮されている。 ●各地の人々が生活を営むようすを読み取れる写真や文章を多数掲載し、自主・自律の精神や勤労を重んじ、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるよう配慮されている。 ●日本・世界の諸地域の学習を通して、多様な立場や考え方があることを認識し、多面的・多角的な視点でものごとをとらえられるように配慮されている。 ●日本各地域の伝統や文化を多く扱い、その学習を通して我が国や郷土を愛する心を育めるよう構成されている。同時に、他国のさまざまな文化にも目を向け、それらを尊重する態度を養えるよう配慮されている。 	p.37 およびおもに 特色1 p.5-8 特色2 p.9-20 特色3 p.21-24 特色4 p.25-28 特色5 p.29-31
	学習指導要領の目標・内容の趣旨に沿ったものであるか。	<ul style="list-style-type: none"> ●単元構成は、学習指導要領の目標・内容に沿って構成されている。「もくじ」「この教科書の学習の仕方」では、単元構成と学習内容、コーナーの意図や役割が一望でき、学習の位置づけや見通しがつかみやすいように工夫されている。(p. I - III) ●臨場感あふれる写真を通して日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、各地の地域的特色をとらえられる本文やコラムがバランス良く盛り込まれている。 ●地理的な見方・考え方の基礎を養いながら、我が国の国土や世界の諸地域に関する地理的認識を養えるよう構成されている。 ●知識が確実に習得できるよう本文や資料でていねいに解説され、「技能をみがく」コーナーを設けて知識を活用するための技能を身につけられる。地域調査など具体的に活用できる場面が設けられ、公民的資質の基礎を養えるよう配慮されている。 	おもに 特色1 p.5-8 特色2 p.9-20 特色3 p.21-24 特色4 p.25-28 特色5 p.29-31
	各単元・見開きの分量は、ねらいや発達段階に応じて偏りなく適切で、系統性が考慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●1見開き1単位時間(以下、時間)の授業が想定され、学習課題が明確に設定されている。 ●授業数は、第1部に46時間(第1章4時間、第2章8時間、第3章30時間、第4章4時間)、第2部に60時間(第1章5時間、第2章14時間、第3章36時間、第4章5時間)が配当され、標準授業時間数120時間のうち106時間を活用する配当で、適切である。予備時間は14時間設けられている。 	おもに 特色3 p.21-24
	内容の程度・範囲・及び文章は、生徒の発達段階から見て適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ●内容の解説は具体的な例示をしたり、地理的事象の背景や因果関係までわかるようにしたりするなど、ていねいでわかりやすい本文になっている。また、平易な表現にするなど、中学生の発達段階が考慮されている。 ●本文、図版タイトル、キャプションの難しい漢字にはふりがなが付されている。また固有名詞や地理用語には適宜ふりがなが付されており、地名や用語、熟語などが正しく読めるように配慮されている。 ●文体は「です、ます」調の語り口で、生徒に親しみやすくなっている。 ●中学校学習指導要領の学習範囲を逸脱せず、基本的な用語や概念の理解を優先的に学べるようになっている。 	おもに 特色2 p.9-20 特色3 p.21-24 特色4 p.25-28
	学習を効果的かつ効率的に進めるための工夫はされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●各見開きは、本文、資料、側注などが統一したレイアウトで配置され誌面の使い方が整理されている。学習内容が定着するよう、「見通し→本文→振り返り」という展開で構造化されている。 ●気候帯の学習を第1部第2章で行ったり、地形図の技能を第2部第2章で行ったりする構成になっており、それ以降の学習活動を効率的に進められる工夫がされている。 ●用語解説や関連資料が本文のページの側注欄に掲載されており、一度説明した用語についてはページ間リンクを活用するなどして説明の重複を避けており、学習が効率的に進められるようになっている。 	おもに 特色3 p.21-24
内容の扱い	基礎的・基本的な知識、概念や技能を確実に習得でき、学力向上に寄与するよう配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●見開き1時間の誌面が、興味・関心をひく「導入」→学習のめあてを見通せる「学習課題」→ていねいでわかりやすい「本文」→学習事項を振り返る「確認しよう」「説明しよう」の流れで構造化され、基礎的・基本的な知識や技能、概念が確実に習得できるように配慮されている。 ●第1部第3章「世界の諸地域」、第2部第3章「日本の諸地域」では、各地の地域的特色を確実に習得できるように、各節の構成が「導入写真」→「自然環境」→地域で特徴的な「生活・文化」「産業」など→「学習をふりかえろう」という展開に構造化されている。(例：p.74-87 北アメリカ州、p.182-195 中国・四国地方) ●本文は、全編にわたり地理的事象のしくみや概念がわかるように因果関係をふまえたうえで、具体例を挙げながらわかりやすく記述されている。また、文章で書かれた内容を補足し理解を促進する、わかりやすい図解が多数掲載されている。 ●「技能をみがく」コーナーが25か所設けられ、資料の具体的な見方から考え方、表現方法まで、地理学習の基礎的・基本的な技能を習得できるよう配慮されている。(例：p.7, 9, 11, 13, 15, 17, 29, 31, 32など) ●地域調査の単元では、調査テーマの決め方、視点の例、調査手順、必要な技能が系統だてて具体的に示されており、技能を習得しやすい配慮がされている。(p.266-275) 	おもに 特色2 p.9-20 特色3 p.21-24 特色4 p.25-28 特色5 p.29-31

観点	観点の内容	本書の特色	本解説書での特色と掲載頁
内容の扱い	生徒の興味・関心を喚起させ、主体的に学習に取り組む態度を形成できるように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 幅広の判型 (A4判) にして誌面をワイドにすることで、写真や地図、グラフなどが大きく見やすく提示され、地理への興味・関心が喚起されるように工夫されている。 ● 第1部第3章「世界の諸地域」、第2部第3章「日本の諸地域」では各節の冒頭に「導入写真」ページが設けられ、学習する地域への興味・関心を抱きやすいように工夫されている。(p.34, 50, 64, 74, 88, 100, 168, 182, 196, 210, 224, 240, 254) ● 生徒にとって親しみやすい中学生などのキャラクターが各ページに配され、発問や気づき、学習の手がかりや示唆などを提示することで、主体的に学習に取り組める配慮がなされている。 ● 地域調査の単元では調査テーマの決め方、視点の例、調査手順などが具体的に示されており、生徒が主体的に学習を進められるよう配慮されている。(p.266-275) 	おもに 特色1 p.5-8 特色2 p.9-20
	正確かつ公正であり、多面的・多角的に考察することで社会的な見方や考え方の基礎を養えるよう配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 本文は、地理的事象を地域の人々の営みと関連づけて例示しながら記述されている。 ● 第2部第3章「日本の諸地域」には特設ページ「地域を探ろう」が設けられ、「地域をみる視点」(中核とした考察)とは別の視点から地域をながめ、多面的・多角的に考察できるように配慮されている。(p.180, 194, 208, 222, 238, 252) ● 第1部第3章「世界の諸地域」、第2部第3章「日本の諸地域」各節末尾の「学習をふりかえろう」では、流れ図や表の作成などさまざまな形式でのまとめ方を身につけられるように工夫されている。(p.48-49, 63, 73, 87, 99, 109, 181, 195, 209, 223, 239, 253, 264) 	おもに 特色2 p.9-20 特色4 p.25-28
	小学校との接続や関連に関して、どのように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1部第1章「世界の姿」や第2部「日本のさまざまな地域」に設けられた作業「やってみよう」では、小学校で学習する「日本の国土」や地図帳の活用に関する内容を、より深化させる学習ができるようになっている。 ● 国名や都道府県名の学習では、小学校での達成目標をふまえた中学校での課題設定がされている。(p.4, 128など) ● さくいんのひき方、地球儀の使い方など、「技能をみがく」コーナーでは、小学校の既習事項の再確認とより進んだ技能の習得ができるように配慮されている。 	おもに 特色2 p.9-20
	他分野との接続に関して、どのように配慮されているか	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界・日本の諸地域の学習において、各地域の文化や産業についての歴史的経緯が積極的に記載され、歴史的分野との接続が考慮されている。 ● 「防災」「環境」「共生」といった、現在および将来の社会が直面する課題を取り上げたコラム「羅針盤マーク」が22か所設置され、公的的分野への接続が考慮されている。 	
学習活動	「見通し・振り返り学習活動」に配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 本文のページには、本時の目標を示した「学習課題」と、学習内容の復習ができる「確認しよう」「説明しよう」が記載され、「見通し・振り返り学習活動」がしやすい構成になっている。 ● 第1部第3章「世界の諸地域」、第2部第3章「日本の諸地域」では、各節冒頭の「導入写真」ページで地域を概観して見通し、末尾の「学習をふりかえろう」で地域の学習を振り返れるようになっており、「見通し・振り返り学習活動」がしやすい構成になっている。(例：北アメリカ州p.74, 87, 中国・四国地方p.182, 195) ● 世界の諸地域および日本の諸地域の単元冒頭に、各地域で注目する学習の進め方やテーマ・視点が「序章」としてわかりやすく示されており、学習の見通しが立てやすくなっている。(p.33, 167) 	おもに 特色2 p.9-20 特色3 p.21-24
	「習得」「活用」「探究」の学習活動を展開できるような内容の質・量の充実がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 「技能をみがく」コーナーが25か所設けられ、資料の具体的な見方から考え方、表現方法まで、地理学習の基礎的・基本的な技能を習得できるように配慮されている。(例：p.7, 9, 11, 13, 15, 17, 29, 31, 32など) ● 第1部第3章「世界の諸地域」、第2部第3章「日本の諸地域」の各節末尾に設置された「学習をふりかえろう」には、「説明しよう」「探究しよう」が設けられ、学習した内容を自分の言葉でまとめて表現させることで、生徒の探究活動を促す工夫がされている。(p.48-49, 63, 73, 87, 99, 109, 181, 195, 209, 223, 239, 253, 264) 	おもに 特色2 p.9-20 特色5 p.29-31
	言語活動を充実し、思考力・判断力・表現力を育くむよう配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 本文のページの見開きの右下には、「確認しよう」と「説明しよう」が設置されている。「確認しよう」には、本時の学習での習得事項の確認が、「説明しよう」には、本時の学習内容を活用して思考を促し、自分なりに判断・表現する問いが設けられ、言語活動を毎時間くり返し行うことができるよう工夫されている。 ● 地理の知識や技能を使って、課題に自分なりにチャレンジする特設ページ「トライアル地理」が2か所設置されている。(p.148「ハザードマップを使ってみよう」、p.265「観光ルートマップをつくってみよう」) ● 第1部第3章「世界の諸地域」、第2部第3章「日本の諸地域」の各節末尾に設置された「学習をふりかえろう」には、「説明しよう」「探究しよう」が設けられ、学習した内容を自分の言葉でまとめたり、表現したりするように配慮されている。(p.48-49, 63, 73, 87, 99, 109, 181, 195, 209, 223, 239, 253, 264) 	おもに 特色2 p.9-20 特色3 p.21-24 特色4 p.25-28
	「個に応じた指導」が展開できるように、補充的な学習や発展的学習、協働学習などへの配慮や工夫がなされているか	<ul style="list-style-type: none"> ● わかりやすい本文や、それを補足する図解で、基礎的な学習内容を定着しやすくなっている。 ● 地理的な見方・考え方を養い、協働的な学びが実践でき学習を一層深められる「トライアル地理」が2か所設置されている。(p.148「ハザードマップを使ってみよう」、p.265「観光ルートマップをつくってみよう」) ● 地域調査の単元では、協働学習形態の提示が行われている。(p.266-275) ● 第2部第3章「日本の諸地域」の特設ページ「地域を探ろう」では、学習したことを具体例を通じてさらに深めることができるよう配慮されている。(p.180, 194, 208, 222, 238, 252) 	おもに 特色3 p.21-24 特色4 p.25-28
	生徒が家庭でも主体的に自学自習できるように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒が家庭に持ち帰ることを想定し、できるだけ軽い紙と軽量な製本様式が用いられている。 ● 「この教科書の学習の仕方」が掲載され、自学自習がしやすくなっている。(p.Ⅲ) ● 本文のページは左ページ上段で導入資料、右ページ上段に図版、写真、コラムを取り上げ、下部に本文を掲載する学習しやすいレイアウトに統一されている。また、相互にリンクが張られ、資料を活用しやすく工夫されている。 ● 本文のページには「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」が設置され、予習・復習をしやすくなっている。また、単元のまとめになる「学習をふりかえろう」も復習をしやすいう配慮がされている。 ● 章ごとに各見開きの色が統一されており、かつ誌面右端の見出しには、章の学習内容が記載されていることで、一目で学習している単元がわかるように配慮されている。 	おもに 特色3 p.21-24

観点	観点の内容	本書の特色	本解説書での特色と掲載頁
今日的な課題への対応	「持続可能な社会」の実現に関して、どのように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●「防災」「環境」「共生」といった、現在および将来の社会が直面する課題を取り上げたコラム「羅針盤マーク」が22か所設置され、持続可能な社会の実現のために取り組んでいる人々の姿が紹介されている。(p.57, 177, 213など) ●第2部第3章「日本の諸地域」の特設ページ「地域を探ろう」では、地域の課題への取り組みが取り上げられ、持続可能な社会の実現のために取り組んでいる人々の姿が紹介されている。(p.180, 194, 208, 222, 238, 252) 	おもに 特色2 p.9-20 特色4 p.25-28
	環境教育に関して、どのように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●第1部第3章「世界の諸地域」、第2部第3章「日本の諸地域」では、学習が「自然環境」から始まっており、各地域の自然環境に対する理解が深められるように配慮されている。(例：北アメリカ州 p.76, 中国・四国地方 p.184) ●「環境」をテーマにしたコラム「羅針盤マーク」が8か所設置され、環境保全に取り組んでいる人々の姿が紹介されている。(p.86, 157, 173, 177, 193, 205, 215, 237) 	おもに 特色2 p.9-20 特色4 p.25-28
	防災に関して、どのように配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●第2部2章「世界と比べた日本の地域的特色」の中で日本の自然災害について扱われている。日本で起こりうる自然災害と各地で行われている防災への取り組みについて学び、同時に自分自身が災害にどのように備えるか、災害発生時にどのように行動すべきか、主体的に考えることができるよう配慮されている。(p.144-149) ●「トライアル地理」の「ハザードマップを使ってみよう」では、ハザードマップの使い方や災害時の避難方法等を実践的に学習でき、防災への意識を高めることができるよう配慮されている。(p.148) ●東日本大震災の復興に向けた取り組みを事例として取り上げ、防災の重要性を強調するとともに、地域ぐるみでの取り組みの大切さを知ることができるよう工夫されている。(p.252) 	おもに 特色4 p.25-28
	我が国の領域をめぐる問題へ配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●第2部第1章「日本の姿」の中で、日本の領域について図や写真を用いていねいに説明され、正しい理解を深められるよう配慮されている。また、北方領土、竹島、尖閣諸島が日本固有の領土であることが明記され、領土に関する現状と課題を示しつつ、平和的な解決に向けてどのような方法があるのか考えられるよう配慮されている。(p.124-127) 	おもに 特色4 p.25-28
	人権教育の推進を図るための工夫がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●日本・世界の諸地域の学習を通して、各地にはさまざまな立場や考え方があることを認識し、多様な価値観や文化に対する理解と寛容な態度を育むことができるよう配慮されている。 	おもに 特色2 p.9-20
表記・表現	統計、挿絵、写真、図表等は鮮明、正確かつ適切であり、相互の関連が図られるなど活用するにあたり効果的であるか。	<ul style="list-style-type: none"> ●本文の記述を補足する写真や図表などが豊富に、また判型を生かした大判で掲載され、学習を深められるようになっている。 ●学習内容に関連する事項についての参照ページ、参照資料の図番号などのリンク機能が設けられ、資料の活用を促している。 ●資料の読み取りのポイントを示した「資料活用」が随所に設置され、資料の活用を促している。 ●地理を学習する上で大切な用語を解説した「解説」が側注欄に59か所設置されている。また文章だけでは理解しづらい用語には、図や写真が添えられて視覚的に理解が深まるよう工夫されている。(p.170「カルデラ」など)。 	おもに 特色2 p.9-20 特色3 p.21-24
	カラーユニバーサルデザインへの配慮が行われているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●見開きのデザインや、グラフ・地図などの資料は、色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色や模様が使われている。 ●グラフなどの色線は、線種、記号などで差がつけられ、見分けやすいようになっている。 ●色数の多いグラフや地図には、模様を使用され、色以外での区別ができるよう配慮されている。 	おもに ユニバーサルデザインへの配慮
装丁等	紙質や印刷の鮮明度などは良好で、使用上の利便性に配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●写真の印刷は鮮明で見やすくなっている。 ●地図などの図版は、記号や注記文字がよく読み取れるようになっている。 ●紙は、反射を抑えつつ鮮明に発色し、裏写りせず、かつ文字も書きこめる軽量なものが使用されている。 	おもに ユニバーサルデザインへの配慮
	造本は3年間の使用に耐えるか。生徒が使いやすい工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●表紙の材料は引き裂き、引っ張り、折りなどに強い用紙が使用され、さらに、表面の摩耗・汚れを防ぐため、ポリプロピレンシートが貼られているため、長期間の使用に耐えられる。 ●製本は、従来の針金綴じよりも強度があり、かつ、重量の軽いPUR製本が用いられている。本が大きく開くため、掲載情報量が増えるとともに、机の上に開いたまま置くことができる。 	おもに ユニバーサルデザインへの配慮
	用紙・インキ等環境への配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●古紙および環境に優しいフレッシュパルプが用いられている。インキには国産米の米ぬかからつくられるライスインキが使用され、環境保全と地産地消への配慮がなされている。 ●針金を使わないPUR製本により、資源を節約すると同時に、リサイクルしやすくなっている。 	おもに ユニバーサルデザインへの配慮
その他	特別支援教育に関わる適切な配慮がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●カラーユニバーサルデザインについての配慮がなされている(詳細は前述)。 ●図版が色で囲まれ、どこまでが同一の図版か読み取りやすく、またちらつきを抑える工夫をしている。 ●各見開きのデザインは、本文、資料、側注などが統一したレイアウトで配置され、誌面の使い方が整理されており、生徒が学習しやすいように配慮がなされている。 ●章ごとに各見開きの色が統一されており、誌面右端の見出しには、章の学習内容が記載されていることで、一目で学習している単元がわかるように配慮されている。 ●本文などでは、文字をはっきりと読み取ることができるユニバーサルデザインフォント(UDフォント)が使用され、誤読を防ぐ配慮がなされている。 ●図版、写真、イラストは、幅広の判型(AB判)の大きさを生かして大きく掲載されており、生徒が読み取りやすく、考えられる資料になるよう配慮されている。 ●反射を抑えた紙が用いられ、読み取りやすく配慮されている。 	おもに ユニバーサルデザインへの配慮
	サポート体制・周辺教材等はどのようになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●教師用指導書、デジタル教科書(指導者用・学習者用)、拡大教科書、資料集および準拠ワークが平成28年4月までに発刊される予定となっている。 	おもに 裏表紙